



Official TEST Report 2013/3/20～21 FUJI 2nd Official test

スーパーフォーミュラ 2013 シーズン前最後の、第 2 回公式テスト富士は、20 日が春分の日とあって、多くのファンが小春日和の富士スピードウェイを訪れた。DOCOMO TEAM DANDELION RACING は、第 1 回公式テストで得られたデータをもとに、昨年の公式戦で勝利のなかった富士（特別戦富士スプリントカップでは 41 号車が PP、40 号車が優勝）攻略へ向け様々なメニューを考察し臨んだ。

鈴鹿公式テストの結果を踏まえ、多岐にわたるテストプログラムを準備したチームは、1 日目のテスト第 1 セッション開始早々精力的に周回を重ねる。

空力関連のデータ収集とセットアップの確認を主眼に置きながらも、伊沢選手は 3 番手、武藤選手はセットアップとマシン習熟を兼ねた走行を主目的に走行し 15 番手で、1 日目を終えた。基礎データ収集や確認に費やした 1 日目とは異なり、レースシュミレーションやピットストップの確認から予選アタックまで、実践的なシミュレーションやセットアップの熟成を行った 2 日目。午前中のセッション最後の予選アタックシュミレーションに入った伊沢選手は限界を超えたかスピン。右側前方を大破してしまった。何とか午後の走行終了 15 分前に車両修復が完了したが、他車に重大なトラブルが発生。全車の安全を確保するためそのまま赤旗をもって終了となった。

40 : 伊沢拓也 選手 (20 日 3 位、21 日 9 位)

鈴鹿に続いて、富士でも常にトップ 3 のタイムを記録することが出来、車両の仕上がりも上々です。様々なトライを行い、有効なデータも得ることができたので、開幕戦に向けて何も心配はありません。2 日目午前中のアタックでクラッシュしてしまい、メカニックが必死で修復してくれたので、最後のアタックに集中していましたが、共通部品のトラブルがあったため中止となり、ちょっと不完全燃焼ですね。

ここ富士では、昨年同様、我々の速いところ、遅いところがはっきりとしていて、この遅い部分を克服することが重要課題です。結果をよく解析し、2013 シーズンへの準備を整えます。

41 : 武藤英紀 選手 (20 日 15 位、21 日 16 位)

前回テストから、少しずつスーパーフォーミュラに適應できていると感じています。

ロングランでも、安定してまずまずのタイムを記録できたし、色々なトライをして、見つけた答えもあれば、新たな課題も多いと感じました。

さらにレベルを上げて、ペースアップできるように、フィジカル面の準備もしっかりとしてシーズンに臨みます。